

はじめに

現役ケアマネジャー

船橋市議会議員

宮崎なつき

この本は、

- ・介護の現場で仕事を続けながら
- ・現職の地方議員を担っている

5名の実話を通して

- ・「なぜ」議員になる必要があるか
- ・地方議員の目指し方を示している内容です。

突然ですが、この本を手に取られたあなたは介護の現場で働きながら政治の必要性を既に知っている貴重な存在です。きつとこの本は、あなたが政治の道を考えることを後押しする本になるでしょう。

さて、介護保険制度が始まって20年が経ちました。あなたは介護現場の現状をどう感じているでしょうか。

私は、はつきりと肌で感じていることがあります。

このままでと「ヤバイ」

何が、「ヤバイ」のか。

2025年、団塊の世代の皆様は後期高齢者となります。あなたもよく知っての通り、既に大介護時代に片足を突っ込んでいます。あなたもよく知っての

そんな中、介護業界の処遇はどうでしょうか。

・働きやすさ

・給料

- ・ 責任の重さ
 - ・ 権利意識の高い利用者さんやそのご家族
 - ・ 実地指導といたつたいつ来るかわからない行政への恐怖
 - ・ 書類の多さ……
- 課題をあげればキリがありません。

「ヤバイ」んです。

ふと、思う事があります。

これだけ多くの国民に関係することは無いのに、なぜ「介護」は日本の政治課題で軽んじられているのだろう、と。

多くの方が、目の前に介護の現実がこないと自分事として捉えません。致し方ないのかもしれない。しかし、今から私達現場の人間が動き出さないと、本当に大変な未来がやってきてしまいます。

古き良き時代のような家族介護は、現実的ではないでしょう。

「地域包括ケアシステム」は、いまだになんのことかわからないでしょう。

「ヤバい」んです。

介護現場の皆さん

「誰かが、いつかきつと、どうにかしてくれてくれるってことはない」ことに気づいている
はずです。誰かが助けてくれるなら

- ・ 働く環境もよくなるらない
- ・ 処遇も上がらない
- ・ 離職率が尋常じゃないくらい高い
- ・ 新たな人材が流れてこない。

これらの負の連鎖は、とつくに断ち切られているはずですから……。

私は、介護現場に20年います。

これだけ長い期間、命をかけて他人の老後を支援してきているのにも関わらず、自分が介護を受ける側になったときには、担い手はいません。

容易に想像ができます。

「ヤバい」んです。

20年前、現場の先輩に言われました。「福祉は想いでやっているのだから、お給料の話はしないで」と。

今は、福祉の現場でも給料の話はできるようになりました。しかし「政治」の話はいまだタブーです。

介護保険制度を変えるのに、政治の力は必須です。

このままいくと、「ヤバイ」未来が待っています。だからこそ、介護現場で働くあなたも共に立ち上がって欲しいと、切に願っています。